

とうきょう すくわくプログラム活動報告書/3 歳児

所在	東京都中央区晴海 5-3-2 B 棟 1F
園名	ポピンズナーサリースクール HARUMI FLAG PORT VILLAGE

1. 活動のテーマ

<テーマ>

世界に興味を持ち、様々な国の文化に触れる。

<テーマの設定理由>

園で1年を通して行っている多文化理解教育の取り組みを行っている中で、3歳児クラスのお子さまは、保護者様が多国籍であるご家庭が多い事をきっかけに、保護者の故郷の文化を直接子どもたちに伝えてもらいながら、様々な言葉や挨拶、遊び等文化を通して、日本以外にもタックさんの世界があって、「似ているけどちょっと違う」同じ意味を持つ言葉でも、様々な伝え方や表現がある事を知って欲しいという思いから始めた。

2 活動スケジュール

- 【7月】自分たちの住む国（日本）をしる（クッキングやスポーツ）
- 【9月】お友だちの生れた国を知る（中国）
- 【11月】ドイツ人の保護者から、ドイツを知る（遊びや文化）
- 【2月】オリンピック開催国（イタリア）について知る（クッキング）

3. 活動のために準備した素材や道具、環境の設定

- ・各国の基本情報や映像などを収集、パワーポイントにまとめプロジェクターで投影
- ・食育用の食品と道具(主に園で使用しているもの)
- ・自分たちでオリジナルの楽器作り (ビーズや丸い入れ物)
- ・自分たちでオリジナルの衣装作り (カラービニール、カラーテープ)

4. 探究活動の実践

<活動の内容>

1年を通して、世界の探求旅に出発。日本をスタートし、自分たちの生まれた国「国ってなんだろう」「世界ってなんだろう」そんな探求から始まり「文化ってなあに？」一つ一つの疑問に皆で考えながら仮説を立て、世界を発見していく

<活動中の子供の姿・声、子供同士や保育者との関わり>

(活動の内容、活動中見られた子どもの姿、保育者との関わり等)

- ・オリンピック開催中は「お相撲は日本のものだよ」ニュースが自分の知識を伝え合う姿が見られるようになった
- ・ドイツ人のお父様に協力いただき、『ドイツ語』を教えてもらった。同じ意味でも言葉が全然違うことやドイツのおいしい食べ物で作ったカードで神経衰弱(ドイツの遊び)等、同じけど違うものの発見があった。
- ・イタリアの探求では映像を使うことで、飛行機に乗って日本→イタリアへ行ってみました。「イタリアってピザがおいしいよね!」との言葉から、初めてのクッキングに挑戦。栄養士指導の元、生地やトマトソースから作り、食文化に触れました。

<振り返りによって得た先生の気づき>

- ・すべての活動に「同じけどちょっと違う。みんな違っていい」事がちりばめられていて、お子様たちは自分たちの探求から様々な学びへと繋げていくことができた。
- ・表現方法や言葉には、同じ意味でも違う事が沢山ある。その中で、自分なりのコミュニケーションの方法を使い、友達になる事や仲良くなる方法を子どもたちが自ら知ることが出来た。
- ・保護者を巻き込むことにより、世界の知識がより身近に感じられるようになった。

活動の様子が分かる写真 2枚以上を貼付してください。

(HPなどで公開する可能性がありますので、公開可能なものを使用してください。)

